

第1技術委員会では、環境に関する身近なテーマである音に興味をもっていただくことを目的として小学生向けのイベントを行いました。この企画は、毎年夏休みに実施しているもので、2017年度は川崎駅前の東芝未来科学館で開催しました。内容は、音の原理や仕組みの説明、工作、ゲームなどで、身近な「音」の性質を楽しみながら知ってもらう体験型イベントです。

2017年度は、7月28日の午後に開催し、小学校1年生～4年生の親子55名にご参加いただきました。1時間目の「音の話」では、音ってなんだろう？をテーマに、マイク、スピーカ、オシロスコープなどを使って音の性質を体感してもらいました。2時間目の「工作」では、アフリカの民族楽器であるボンゴラピアノを各自製作し、音が出る仕組みや、音程の調整の仕方を学ぶことで、自分で楽器を作る楽しさを体験してもらいました。3時間目は、一方向にしか音が伝わらない超音波を用いた指向性スピーカや、共鳴パイプを使った楽器演奏を体験してもらいました。そして、最後の時間は、身のまわりの音の大きさをビンゴの数字に置き換えた音ビンゴゲームを実施しました。騒音計に向かって目標の音の大きさになるように大声を出す子供たちが印象的でした。

2008年度から始めた本イベントは、今回で9年目を迎えました。2018年の第10回は、少し趣向を変えた内容にしようと考えております。

最後に、機械工学振興事業資金より助成を頂いたこと、また、ご協力頂いた東芝科学館、環境工学部門所属（東芝、千代田化工、中央大学、山梨大学）関係者各位に感謝いたします。

